

## 4 緊張等でテストが受けられないDさん（小学校）

Dさんは、緊張する場面やストレスに弱く、テストの場面では突然心拍数が速くなり、いつもより呼吸も短く浅いパニックのような症状を起こします。また、お腹が急に痛くなるためテストを受けることができなくなります。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎全てを完璧に終わらせたいという気持ちが強く、自分自身にプレッシャーをかけすぎてしまうため
- ◎前に経験したパニックのことを思い出し、またパニックを起こすのではと不安になるため
- ◎頑張らなければいけないという気持ちが強く、失敗してはダメだと思ってしまうため

### 合理的配慮・具体的な支援（例）

#### 1 心理的な不安を取り除くための相談を実施する <①-2-3>

- Dさんから不安なことなどをよく聞いて相談にのり、不安を取り除く。また、スクールカウンセラーにつなげるなど、相談できる場を広げる。
- テストの日程等を一覧表にして示し、見通しをもって取り組めるようにする。



## 2 小テストを実施する <①-2-1>

○テストに慣れるために、前時までの学習の復習として小テストを計画的に実施し、成功体験を積み重ねる。



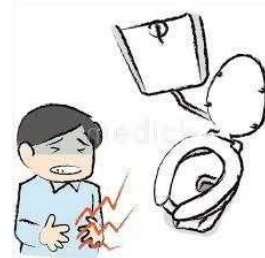
テストに慣れて、緊張も少し和らぎ、落ち着いて取り組むことができるようになってきました。

## 3 別室を用意する <①-2-3>

○少しでも緊張を誘発する刺激を減らし、集中してテストが受けられるよう、別室でテストを受けることを認め、部屋についても相談して決める。また、人前で発表を行うようなテストの場面では、代替措置としてレポートを課したり、発表を録画したもので学習評価を行ったりする。



別室だとトイレにもすぐに行けるので安心です。



## 4 落ち着いて学習に取り組める座席にする <①-2-3>

○後ろから見られているだけでも緊張し、後ろが気になり学習に集中できないという相談を受け、座席は一番後ろにする。



後ろを気にすることもなくなり、授業に集中して取り組むことができるようになりました。

## 5 離席が目立つEさん（小学校）

Eさんは、授業中に座っていられなくなり、教室内を動き回ったり、突然教室から出て行ってしまったりします。他の児童への学習を続けるため、追いかけていくわけにも行かず、対応に困っています。どう配慮したらよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎注意力や集中力が続かず、何か思いついたり、他の刺激を受けたりすると、抑えきれず思わず体が動いてしまうため
- ◎課題が分からなかったり、苦手な学習や活動だったりすることでイライラしてしまい、騒いだりその場から離れてしまったりするため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 集中できる環境を整える <③-2>

- 注意集中が途切れるようなものは、見えない場所に保管する。
- 周囲の人や物が気にならない座席（前方）にする。
- 支援しやすいように、座席を教師のそばにする。

#### 2 学習に気持ちが向くように個別に支援する <①-1-1>

- 注意が他のものに移っている時にはそばに行き、さりげなく言葉がけをしたり、教科書やノート等の見るべきところを指さして注意を向けるよう働きかけたりする。

Eさんの様子を把握しながら、机間指導でタイミング良く言葉かけたことで、集中できる時間が増えて、離席も減ってきました。



### 3 動きのある活動場面をつくる <①-1-1>

○授業の合間に、黒板を消したり、プリントを配ったりする係に指名し、体を動かしても良い機会や場面を取り入れる。

### 4 教室を出ていくときのルールを決める <①-1-2> <①-2-1>

○黙って出ていくのではなく、Eさんが守れる教室を出ていくときのルールを決める。

- (1) 我慢ができなくなったら、教師に言う。
- (2) 居場所カードを選んで教師に渡す。
- (3) 許可カードをもらって教室の外に出る。
- (4) 落ち着いたら教室に戻る。

○上記ができるようになったら、徐々に条件を付加する。

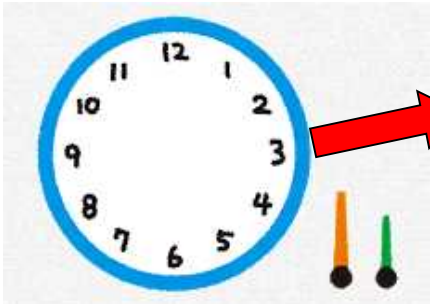
- ・外に出る前に5分待ってみる。 ・一日3回まで。
- ・〇〇の時間は、外に出ない。 等

#### いばしょカード

ほけんしつ

トイレ

しょくいんしつ



#### きょかカード

どこ

なんじまで

約束どおり戻って来られたら、「約束を守ってくれてうれしいよ」とEさんに伝えました。徐々に、離席の時間が短くなってきました。

許可カードは、クラスの皆が使えるということを知らせ、児童同士が互いに認め合える学級経営を普段から心がけることが大切です。

## 6 文字を読むことが苦手なFさん（小学校）

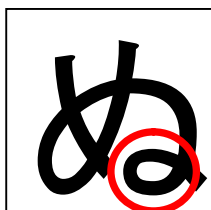
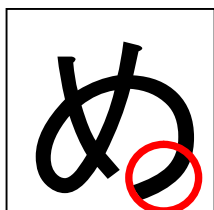
Fさんは、会話ができ、視力に問題はないのに文字を読むことが苦手です。「め」と「ぬ」、「わ」と「れ」等の形の似た文字を読み間違えることがあります。姿勢も悪く、学習にも集中することが難しいようです。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎特定のものに注意を集中することが苦手で、文字の細かな違いを見分けることが難しいため
- ◎衝動性があり、学習に落ち着いて取り組むことが難しいため
- ◎文字と音が正しく結び付いていないため

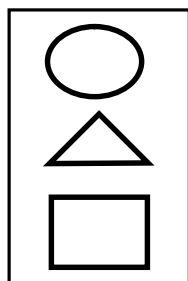
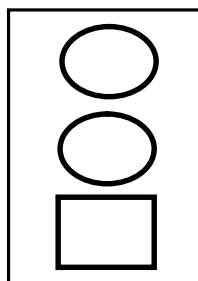
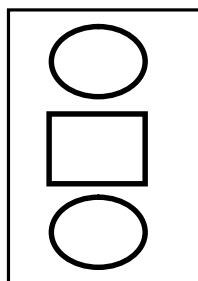
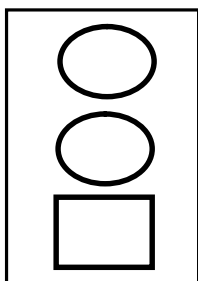
#### 1 細かい部分に注意を向ける力を高められるようにする〈①-1-2〉

○形の弁別や位置把握に問題がある場合には、二つの絵を見比べる間違い探しなどで、細かい部分に注目する力をつける。



似た形の文字を読み間違えることが多いので、板書は大きく見やすく書いて、違いが分かるようにします。

また、文字の特徴を言語化するなどして、細かい部分に注意を向けることができるようにします。



形の弁別課題 左の図と同じものはどれかな？

ゲーム的要素を取り入れるなど、楽しく活動を繰り返すことができるように内容を工夫します。

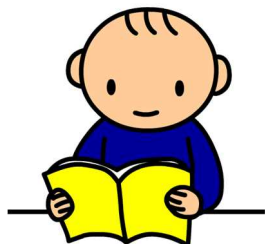
合理的配慮・具体的な支援(例)

## 2 姿勢を整えて、学習に集中できるようにする <①-2-1>

- 床にしっかりと足を着け、背筋を伸ばして着席することを習慣付ける。
- 姿勢を整えて学習に取り組むことを学級全体で習慣付ける。

着席時の姿勢の図を教室に掲示し、姿勢を確認してから授業を始めると、落ち着いて学習に取り組むことができました。

落ち着きなく学習に参加している児童は、早く読みたい気持ちが強いと読み飛ばしてしまったり、早合点して読み間違えてしまったりすることが多く見られます。



## 3 注意して聞く力を育てる <①-1-2> <②-1>

- いろいろな音を聞き分けたり、音の順番を記憶したりする課題や、短い文章の聞き取りなどに取り組む。

専門的な知識のある特別支援学校の教員や言語聴覚士の助言を参考にしたり、通級による指導を活用したりするなどして、一人一人に応じた配慮をしていきましょう。

